「まるごとふじとこ味噌」の紹介

富士市学校給食を考える会
会長　　小櫛　和子

今日は、お味噌汁の味噌のお話をします。

皆さんは、お味噌がどうやって作られるか　知っていますか？
どんなものを使って作られているか知っていますか？

お味噌は、日本に古くから伝わる伝統食で、世界で一番健康にいい食材と言われています。今日のお味噌は、大豆とお米と塩で作られています。

まず、お米を炊いて、糀菌（こうじきん）と混ぜます。
そして、赤ちゃんを育てるように大事にむろで発酵させます。

3日くらい経つと糀の花が咲きます。糀という字は、米に花と書きますが、
きれいな白い花が咲いたようになります。

茹でた大豆をつぶしたものと、糀と塩をいれて混ぜたのをよく練り合わせます。

味噌玉を作って、それを並べて、空気が入らないようにたいらにして密閉し、
半年くらい、味噌の蔵にいれてねかせます。

すると、糀菌からでる酵素と酵母が働いて、味噌に変身させるのです。

今日の味噌の材料、お米と大豆は、おとなりの富士宮市で作ったものです。

常葉大学の学生さんも手伝いました。それを地元のお味噌屋さんがみなさんのために手作りで味噌に仕込んでくれました。

今日の味噌は、熱加工していないので、酵母がたくさん入った元気な味噌です。

昔は、みんな自分の家で味噌を作りました。
「手前みそ」という言葉がありますが、昔は自分の家の味噌が一番美味しいと思って自慢したところからきた言葉です。

大豆を作った人、お米を作った人、お味噌を作った人は、みんなが美味しいと言って食べるのを想像して、愛情込めて作りました。

お味噌を学校に運んでくれた人も、皆さんに喜んでほしくって、いつもと違う面倒な仕事をしてくれました。

皆さんは、大豆やお米を作った人、お味噌を作った人、お味噌を学校に運んだ人、お味噌汁を作った人、色々な人の働いている姿を想像して,
いただいてください。

有機栽培大豆でみそ

常葉大学と神戸醤油店　学校給食で提供

富士市は、有機農法で栽培した大豆で作ったみそを使用したみそ汁を、学校給食の共通献立として6月中に順次提供している。

大豆は、常葉大社会環境学部の池田雅彦教授のゼミが平成20年から取り組んでいる総合的地域活性化事業「大豆プロジェクト」の一環として、富士宮市下条の農地保全団体南条の里と共同栽培したもの。神戸醤油店（富士市北松野）が「まるごとふじとこ味噌」として製造した。

12日には、食育推進校の富士川一小の給食でみそ汁が提供され、ゼミ生で3年の勝俣莉早さんと石川和花さん、神戸醤油店の神戸邦明店長、コーディネート役を担った富士市学校給食を考える会の小櫛和子会長らが4年生の2クラスを訪問。大豆の生産からみそに仕上がるまでの過程を説明し、給食を味わいながら交流を深めた。

神戸店長は、みそは大豆をはじめ、米から作るこうじ、塩を原料にしていることを説明。「まるごとふじとこ味噌」については、「地元で育てた大豆と米を使い、地元で作られた貴重なもの。発酵が続いており、熟成された味がするのが特長」と紹介。その上で「大豆や米を作った人、みそに加工した人、調理してくれた人などに感謝して食べてほしい」と思いを伝えた。

ゼミ生たちは、大豆の無農薬栽培の方法について写真パネルを示しながら説明した。

みそ汁を味わった児童たちは、普段とひと味違う風味に感動した様子で「すごくおいしい」や「お代わりしたい」などと歓声を上げて喜んだ。清将洋さんは「いつもより味が濃く、毎日食べたいくらいおいしかった。説明を聞いて、とても貴重な味ということも分かった。またいつか食べたい」と笑顔で話した。



大豆とみその作り方を説明するゼミ生と神戸店長



「まるごとふじとこ味噌」のみそ汁を盛り込んだ給食

岳心流富岳愛吟国風会 50周年記念大会

18日にロゼ中ホール

岳心流富岳愛吟国風会（加藤耿心会長）の創立50周年記念大会が18日（日）午前10時から、富士市蓼原町のロゼシアター中ホールで開かれる。入場無料。

主なプログラムは、会詩合吟、会員吟詠、同門招待合吟詠・吟詠、友好招待吟詠、大合吟、記念式典。

県内外の各会長、友好吟詠会の指導者らの

7月1日に5種目開幕

中学総体　8、9日メインに熱戦



富士市中学校総合体育大会の開催日程がこのほど決まった。7月8日（土）、9日（日）をメインに14種目を行う。野球、ソフトボール、ソフトテニスは9日（土）、陸上は29日（土）、駅伝は9月30日（土）に行う。

各種目の開催日程と会場は次の通り。

▽野球…1、2、8、9日（富士球場、東球場、富士川緑地公園、東部スポーツ広場）

▽ソフトボール…1、8日（富士川緑地公園ソフトボール場）

▽ソフトテニス…1、2、8、9日（富士総合運動公園庭球場）

▽バレー…1、9日（富

市内大会	
会	場
富士球場・東球場 富士川緑地・東部スポーツ広場	
富士川緑地（ソフトボール場）	
男　富士総合運動公園庭球場	
女　富士総合運動公園庭球場	
男　富　士　中	
女　富士市立富士川体育館	
男女　富士市立富士川体育館	
男女　富士市立体育館	
男女　須津中・鷹岡中	
男女　須　津　中	
田　子　浦　中	
富　士　南　中	
富士総合運動公園陸上競技場	
田　子　浦　中	
元　吉　原　中	
富士市立富士川体育館	
静岡県富士水泳場	
富士総合運動公園陸上競技場	
富士総合運動公園陸上競技場周辺	
吉　原　東　中	

みそ給食「味濃厚～」

常葉大生の栽培大豆 富士市の学校に提供

常葉大学社会環境学部（富士市）の学生が栽培した大豆がみそに加工され、今月から富士市の学校給食として提供が始まった。十二日は、本年度の市の食育推進校に指定された富士川第一小学校で「ぶたにくとごぼうのみそしる」として登場。子どもたちは「味が濃くておいしい」と歓声を上げ、瞬く間に平らげた。



みそ汁を瞬く間に平らげ「おいしくてもう全部食べちゃったよ」と喜ぶ4年生の子どもたち＝富士市の富士川第一小で

社会環境学部の池田雅彦教授のゼミで、地域活性化事業「大豆プロジェクト」の一環として栽培に取り組んだ。富士宮市の畑で無農薬で育てた「フクユタカ」を二〇一五年に収穫。昨年六月に市内の神戸醤油店（神戸邦明店長）が仕込み、「まるごとふじとこ味噌」と名付けた。うま味の強さが特徴という。

この日は、学生二人と神戸店長が大豆づくりや醸造法をレクチャー。子どもたちは「赤みそと白みそはどう違うんですか」と質問するなど、熱心に聞き入っていた。「まるごとふじとこ味噌」を使用した献立は今月、市内の他の小中学校の献立にも登場する予定。（前田朋子）

「市民が主役の市に」

伊東市議会 新市長 所信表明

伊東市議会六月定例会が十二日開会し、先月の市長選で初当選した小野達也市長が所信表明で「市民が主役の明るい伊東市をつくり上げていきたい」と抱負を述べた。

がドラマや映画のロケ誘致を進め、市の景勝地や観光スポットを露出させるなど、新たなシティープロモーションを展開していきたい」と意欲を示した。

市南部の八幡野地区に民間業者が計画している大規模太陽光発電所（メガソーラー）について「地元が反対している計画については、地元の意向に沿うよう、事業者とも向き合う中で、開発の見直しに向け努力していく」と述べ、計画に反対する立場をあらためて示した。（中谷秀樹）

いては明言しなかった。（沢井秀之）

ロリエ常盤家が自己破産申請へ

清水区の洋菓子店

東京商工リサーチ静岡支店によると、「アマンド娘」などの洋菓子で知られるロリエ常盤家（静岡市清水区）

アユ釣り大会 市民ら楽しむ

葵区・藁科川

静岡市葵区の藁科川の富厚里橋周辺で十一日、市民鮎釣り大会（中日新聞東海本社後援）が開かれ＝写真、二十七～七十九歳の市民ら四十人が出場した。

アユ釣りの楽しさを広めようと安漁業協同組合おとりアユを放り部門に三十



「共謀罪廃案に」 市民ら100人訴え

藤枝で集会

「共謀罪」の趣旨を含む組織犯罪処罰法改正案の廃案を求める集会とデモ行進が十一日、藤枝市志太で行われた。

市内各地の九条の会や新婦人協会支部などでつくる実行委員会が主催し、市民ら約百人が参加した。参加団体の代表者らが内容を理解し法案を成立させけない」「法性を広く知ってたい」などと訴説した。

集会後、そレンジ色のス身に着けた参「共謀罪は廃などとシュプルを練り歩いた。（瀬田



再発見！伊豆学 点在した石丁場

江戸城は現在、皇居になっているが、最初は関東から東北一帯を

大名の彼らに江築を手伝わせ、経済力を衰があったというは家臣に命じ、呼ばれる職人た

静岡

静岡総局
〒420-0852
静岡市葵区
紺屋町11－17
桜井第一共同ビル
054(255)2121
FAX 054(255)2124
沼津支局
055(962)1123
FAX 055(962)5964
島田通信局
0547(37)6283
FAX 0547(33)0026
熱海通信局
0557(81)2824
FAX 0557(86)0029
三島通信部
055(975)3525
FAX 055(975)3567
富士通信部
0545(62)0200
FAX 0545(62)0202
伊東通信部
0557(45)8885
FAX 0557(45)1945
藤枝通信部
054(646)8080
FAX 054(646)8081
牧之原通信部
0548(22)5731
FAX 0548(22)5732
購読のお申し込み
0120-454-010
広告のお申し込み

学生と地元製造者連携

自家製みそ 給食に

富士川一小児童が堪能

富士市の２０１７年度の食育推進校に選定されている市立富士川一小などで12日、常葉大富士キャンパスの学生らが有機農法で育てた大豆を使い、市内の製造者が仕込んだ「まるごとふじとこ味噌（みそ）」の給食メニューが登場した。児童が地元産みそのみそ汁を堪能した。



「まるごとふじとこ味噌」のみそ汁を味わう児童＝富士市立富士川一小（写真の一部を加工しています）

大豆は、同大社会環境学部池田雅彦ゼミの学生が富士宮市の「南条の里農地保全会」の会員と同市の遊休農地で栽培した。富士市北松野の「神戸醤油（しょうゆ）店」の神戸邦明さんが16年6月に仕込み、自家製みそに仕上げた。地産地消について児童に知ってもらおうと、「富士市学校給食を考える会」が提案し、給食の献立に決まった。

神戸さんや同ゼミの学生2人が富士川一小の4年生約50人に大豆やみそができるまでの過程を説明し、児童と一緒に、まるごとふじとこ味噌を使ったみそ汁を味わった。佐々木えれんさんは「いつものみそ汁より色や味が濃くておいしい」と笑顔で話した。まるごとふじとこ味噌のみそ汁は6月中に、富士市内の全小中学校の給食で提供される予定。（富士支局・船田枝里）

発案

身近な変身やか

きょうまで作品100点紹介

工房の生徒約30人が　横1・8㍍のタペスト　さんが2005年ご





1976人 港町走り抜ける

東伊豆でキンメマラソン

「第2回伊豆稲取キンメマラソン」（同実行委主催）が11日、東伊豆町で開かれた。「ハーフ」「10㌔」「3㌔」の3部門に、県内外の1976人がエントリー。伊豆半島東海岸の港町を思い思いのペースで走り抜けた。

ゴールはいずれも稲取漁港に面した町役場前。ハーフと10㌔は町クロスカントリーコースをスタートする標高差約260㍍の下りコース、3㌔は稲取温泉街を疾走した。仮装賞も設け、真っ赤なキンメダイやアニメのキャラクターなどに扮（ふん）した走者が沿道をわかせた。



思い思いのペースでゴールを目指す「伊豆稲取キンメマラソン」の出場者＝東伊豆町

ゴールと給水地点では特産のニューサマーオレンジのゼリーやシャーベット、キンメダイのみそ汁などを提供した。

同マラソン大会は、ブランド魚の「稲取キンメ」にちなんだ町おこしイベント。出場登録者は前回を上回ったという。

たばかりの梅を通常価

西伊豆

イラストで確認

下田消防本部西伊豆消防署は12日、西伊豆町立賀茂幼稚園で花火の安全な遊び方教室を開いた。

同消防署の職員が3～5歳児18人に花火で遊ぶときの注意点を伝えた。イラストを使いながら「水バケツを用意する」「花火を人に向けない」など四つのっ



実体了



花火の安全な遊び方を学ぶ園児＝富士市の中里保育園

中里保育園（青野貴芳園長）で花火教室を開

施設と小学校22校でも実施する。

中央消防署吉永分署の消防士ら5人が訪れ、3～6歳児約70人に「花火を人に向けない」「終わったと思ってもものぞかない」などと指導した。園児らは手持ち花火を楽しんだ後、水が入ったバケツに入れて消火を体験

富士宮市消防本部が市内の幼・保育園などに出向く2017年度の花火教室が12日、始まった。中央消防署と西消防署の署員が約1カ月間で計33園を回り、花火を安全に楽しむ方法を伝授する。

初日は中央消防署の5人が、同市中里東町の市立西保育園を訪問。園児115人を対象に、火災への注意を促す子ども用のビデオを上映した。花火をする際に気を付けることとして、大人と一緒にやる▽ろうそくで火を付ける▽人に向けない▽終わったら水の入ったバケツに入れるーの4点を呼び掛けた。

園庭では、手持ち花火の取り扱いを実践。署員から「花火の端を
















南条の里
南条の里の会
200円
500円